4　ＷＧの主な意見　～まとめ～

「自助」「共助」「公助」の定義

・　市民は、防災（備蓄品、避難所運営など）について、『公助』に頼りきりで、自分のこととしてとらえていない現状がある。
・　大人だけでなく、子どもたちも含めた市民一人ひとりが、「自分の命は自分で守る」という『自助』の意識、「共に助け合う」という『共助』の意識をもつことが必要。
・　市は、市民が防災について主体的に考えるように、ターゲットを絞った効果的な啓発を行っていく必要がある。
※　ＷＧが考えた新潟市の防災のあり方（「自助」「共助」「公助」の定義）と、市民がするべきことを、Ｐ３３にまとめて掲載。

避難所運営

東日本大震災では、避難所での女性用の物資の不足や、授乳や着替えをするための場所がなかったり、「女性だから」ということで当然のように避難所の食事準備を割り振られたりするなど、さまざまな場面において男女共同参画の視点が不十分な状況が報告されている。

避難所運営で必要だと考えること

・　女性が意見を言いやすい仕組み。（平常時の地域防災への女性の参画が重要）
・　災害時要援護者等、避難者一人ひとりへの配慮
（乳幼児スペース、福祉スペース、児童スペースの設置、など）
・　男女のニーズの違いに配慮した運営
（女性専用の物干し場や授乳室、男女別の更衣室・トイレ・休養スペース等の設置、女性用品の配布を女性が行う、女性の相談を女性が受ける、など）
・　避難所外の避難者のニーズも把握し、物資や情報を提供すること。

備蓄品の見直し

・　食糧品の備蓄は、すべて自助とし、公的な備蓄は飲料水のみとすることについても検討するべき。
・　市の備蓄内容を市民にもっと周知することが必要。
・　災害時要援護者や多様なニーズに配慮した備蓄内容の見直し

・アレルギー対応食品が必要となる人は増加傾向にあるので、アレルギー対応の食品（アルファ化米・お粥・粉ミルク）は、最優先で検討が必要。
・高齢者等が飲み込みやすくする『とろみ剤』が必要。
・子どものおしりや、避難者の手などが拭ける万能品としてウエットティッシュが必要。

5　主な意見を踏まえた地域防災計画等の見直しの方向

「自助」「共助」「公助」の定義

・　「自助」「共助」「公助」の定義を明確にするとともに、考え方をわかりやすく例示し、市民が共有できるようにする。啓発の際は、ターゲットを絞った効果的な啓発を行う。

避難所運営

避難所運営マニュアルの改訂

・　避難者の多様なニーズに配慮した避難所運営を行えるよう、ＷＧでの意見を踏まえて、高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児等の要援護者への配慮や、授乳室や男女別の更衣室の設置、女性による女性用品の配布など、男女のニーズの違いやプライバシーを考慮した「避難所運営マニュアル」を改訂。（平成２５年８月改訂）
・　改訂後のマニュアルをベースに、避難所ごとに地域住民、施設管理者、行政が共同して、実情に合ったオリジナル版への改訂を進め、地域主体の運営（共助）を推進していく。

自主防災組織への女性の参画の推進

・　地域の女性リーダーの育成を図るとともに、自主防災組織の活動に「女性の視点」を反映させるため、市民に示している編成例・活動形態事例を女性の意見を取り入れた編成例に変更し、周知する。

備蓄品の見直し

・　食物アレルギーに対応した食糧の備蓄を推進する。
➡ 平成 25 年度からアレルギー対応アルファ化米（わかめご飯）の備蓄を順次進める。
・　「とろみ剤」や「ウエットティッシュ」など、今後、備蓄内容の見直しを検討していく。
・　市の備蓄内容を市民へ周知し、市民一人ひとりの備蓄を推進する。